

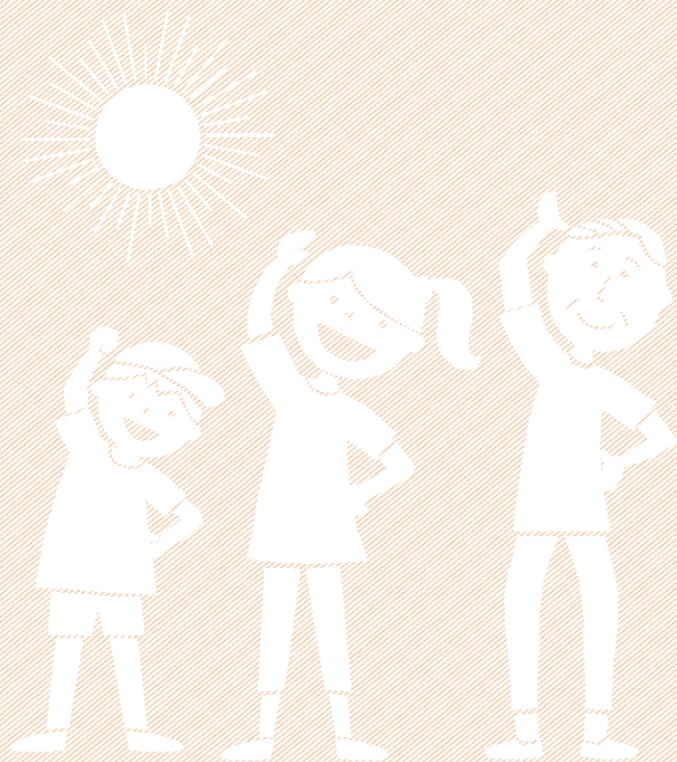
H

A

N

D

A



第3編 ● 基本計画

第3章

つながり助けあう 健康と笑顔を育むまち

基本施策 1

地域福祉……………50

- 1 地域福祉……………51
- 2 高齢者福祉……………51
- 3 障がい者福祉……………52

基本施策 2

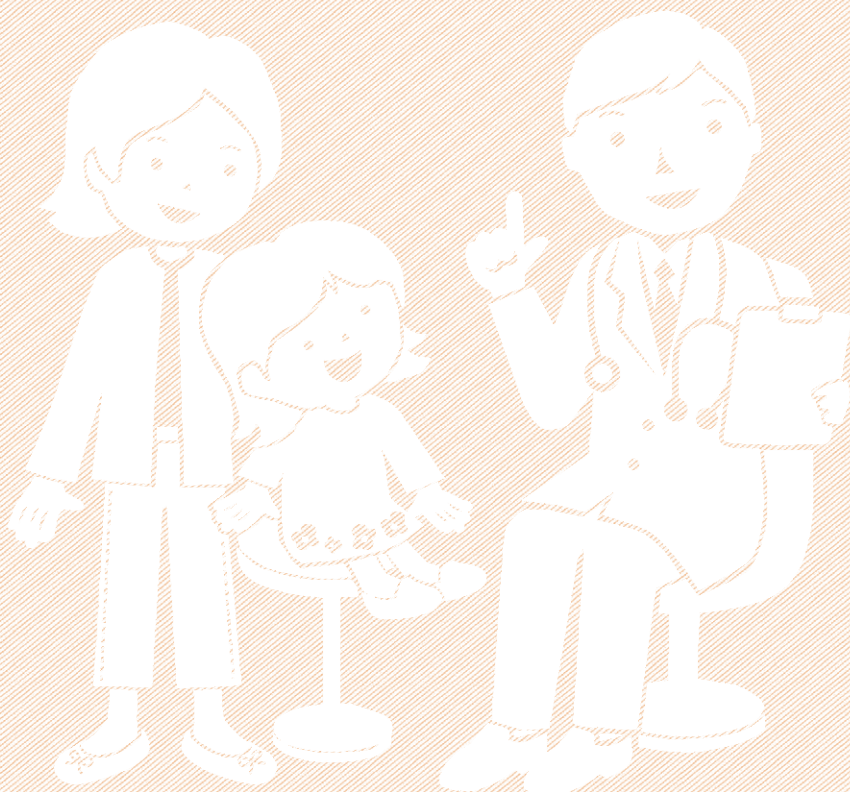
健康……………54

- 1 健康づくり……………55
- 2 スポーツ……………55

基本施策 3

医療体制……………58

- 1 地域医療体制……………59
- 2 知多半島総合医療機構…59



地域福祉



施策が目指す半田市の将来の姿

- 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる支えあいのまちづくりが進んでいます。
- 高齢者の社会参加が進み、安心して生活できるための支援体制が充実しています。
- 障がい者に対する理解促進・支援充実が進み、地域で活躍する障がい者が増えています。

基本成果指標

| | 単位 | 計画策定時 | | 現状値 | 目標値 |
|---|-----|-----------|------|--------------|---------------|
| | | 年度 | 基準値 | 2024 (R6) 年度 | 2030 (R12) 年度 |
| 地域の福祉課題について話しあう「ふくし井戸端会議」等の参加者数 | 人/年 | 2019 (R1) | 565 | 688 [800] | 1,000 |
| “福祉の総合相談窓口”「くらし相談室～あんしん半田～」自立支援件数 | 件/年 | 2019 (R1) | 238 | 323 [300] | 350 |
| 高齢者への福祉施策が充実していると思う高齢者又はその家族の割合 | % | 2020 (R2) | 35.5 | 26.5 [45] | 55 |
| 就労系障がい福祉サービス(就労移行、就労継続支援)と障がい者相談支援事業の就労支援により企業等へ就労した方 ※令和3年度以降の延べ数 | 人 | 2019 (R1) | 35 | 212 [225] | 450 |

[]内の数値は計画策定時の2025(令和7)年度目標値

現状と課題

- 地域ふれあい施設等の運営や住民同士の助けあい組織の活動など、住民に身近な地域における福祉的活動が活発に行われています。これらの活動を継続・発展させるための担い手の育成・確保が必要です。
- 福祉に関する複合的な課題や「制度のはざま」と呼ばれる課題などに対応するため、分野横断的な包括的相談支援の充実が必要です。
- 団塊の世代が後期高齢者となることに加え、高齢者人口がピークを迎える時期及びその先を見据え、介護保険サービス基盤の整備、介護人材の確保、地域包括ケアシステムの充実を図ることが必要です。
- 誰もが認知症になりうることを理解し、認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていける環境、及び認知症を地域全体で支える仕組みづくりが必要です。
- 障がい者が地域で安心して暮らせるよう支援体制の整備・充実を図るとともに、障がいに対する理解及び誰もが支え支えられる地域の実現についての市民啓発活動が必要です。

単位施策・個別施策

1 地域福祉

① 支えあいの地域づくりの促進

多機関連携会議や介護予防・生活支援協議会などを通じて地域の福祉課題の共有や地域の住民主体の活動の活性化を図るとともに、地域ふれあい施設等の運営や住民同士の助けあい組織の活動を支援し、支えあいの地域づくりを促進します。

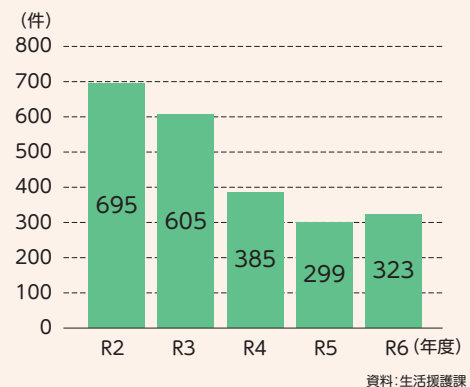
② 相談支援の充実

生活困窮者自立支援、成年後見、自死対策、ひきこもり対策その他あらゆる福祉分野の相談支援の充実を図ります。また、分野の垣根を越えて、相談支援機関の連携を深め、地域で孤立している方や潜在的な困窮状態の方、複雑化・複合化した課題を抱える方などを早期に発見、支援します。

③ 福祉人材の育成

学校と連携した「ふくし共育」の実践や、各種サポーター養成講座、講演会・勉強会の開催などにより地域福祉の担い手を育成します。また、福祉事業所の介護人材等の確保支援にも取り組み、幅広く福祉人材の育成・確保を図ります。

「くらし相談室～あんしん半田～」
自立支援件数



リーディング事業

- 地域福祉推進事業
- 重層的支援体制整備事業
- 生活困窮者自立支援事業

2 高齢者福祉

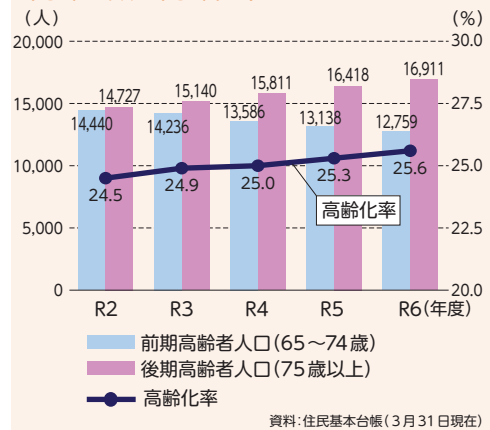
① 地域包括ケアシステムの推進

高齢者等が住み慣れた地域で安心して尊厳あるその人らしい生活を続けるため、介護保険制度の公平で安定的な運営を図るとともに、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいが一体的に提供されるネットワークをつくり、高齢者等を包括的に支援する地域包括ケアシステムのさらなる推進を図ります。

② 介護予防と認知症対策の推進

高齢者の社会参加を促進し、高齢者本人や住民相互の力を引き出しながら、介護予防や生活支援を推進します。また、認知症の方が住み慣れた地域で暮らせるよう、認知症に関する正しい知識と理解を広げるとともに、認知症の方を地域で支える人材を育成します。さらに、認知症の進行に伴い変化する本人や家族のニーズにあわせた切れ目のない支援体制を構築します。

高齢者数と高齢化率



リーディング事業

- 地域包括ケアシステム推進事業
- 認知症総合支援事業
- 介護予防・生活支援サービス事業



3 障がい者福祉

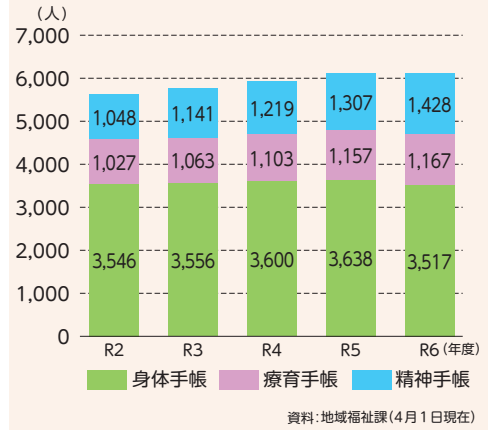
① 障がい福祉サービスの充実

障がい者の安心した暮らしを支えるため、本人とその家族を支える福祉サービスを提供する体制の充実を図ります。また、障がい者自らが自身の生き方を決めていくための情報提供を始め、本人の目標を家族や支援者がチームとなって共有し、支援者の高齢化や障がいの重度化、緊急時に対応するため、切れ目ない支援体制を構築します。

② 誰もが支え支えられる地域づくりの推進

障がいの有無にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で自分らしく生活していくため、障がい者の地域活動への参加を促進し、企業等への就労を推進します。また、障がい者も地域の一員として支え支えられる地域づくりに取り組みます。

障がい者手帳所持者数



リーディング事業

- 障がい者等自立支援事業
- 障がい者等地域生活支援事業

- 1 社会情勢の変化等により生じる新たな福祉課題について、関係機関と連携・協力して解決の仕組みづくりを協議検討する体制を拡充します。
- 2 生活困窮者のうち生活が不規則で無気力な方に、地域ふれあい施設等のボランティアスタッフを体験してもらい、生活リズムを整えて自信や意欲を醸成する就労支援を行います。
- 3 市内福祉事業所及び大学生との協働により、学生に対する事業所紹介・就職マッチング等に取り組みます。
- 4 ひきこもり状態の方が“明日への一歩”を踏み出せるよう、家庭訪問や外出支援、社会参加を促すなど、伴走的な支援を展開します。
- 5 高校生・大学生に対して、福祉事業所の仕事を体験する機会をつくり、福祉への興味・関心を感じてもらうきっかけづくりを行います。
 また、障がい者本人が地域の活動に参加しやすくなるような環境や場面設定を行い、本人の活動を通じた地域への障がい理解の促進に取り組みます。

関連
 個別計画

- 地域福祉計画
- 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- 障がい者保健福祉計画
- 障がい児福祉計画
- 健康はんだ21計画・いのち支える計画
- 知多地域成年後見制度利用促進計画



関連するSDGs



2 健康



施策が目指す半田市の将来の姿

- 一人ひとりが積極的に健康づくりに取り組み、誰もがその人らしく、いきいきと過ごしています。
- 一人ひとりの健康づくりの取組を家庭、学校、職場、地域など、社会全体で支援する環境が整っています。
- スポーツを楽しむことを通じて、心身ともに健康でいられる市民が増えています。

基本成果指標

| | 単位 | 計画策定時 | | 現状値 | 目標値 |
|---------------------|----|-----------|------|--------------------------|---------------|
| | | 年度 | 基準値 | 2024 (R6) 年度 | 2030 (R12) 年度 |
| 定期的に健康診断を受けている市民の割合 | % | 2020 (R2) | 86.8 | 88.6 [95] | 95 |
| 健康づくりに取り組んでいる市民の割合 | % | 2020 (R2) | 74.3 | 74.9 [90] | 95 |
| 成人市民のスポーツ実施率 | % | 2020 (R2) | 43.3 | 52.5 (2023 (R5) 年度) [55] | 70 [65] |

[]内の数値は計画策定時の2025(令和7)年度目標値
 【 】内の数値は計画策定時の目標値

現状と課題

- いつまでも健康で過ごすために、自分の体調に関心を持ち、健康づくりに主体的に取り組むための動機づけや、健康づくりを継続できる環境を整えることが必要です。
- 人生100年時代を見据えたさらなる健康寿命の延伸のため、高齢者の保健事業と介護予防を一体的に進めることが必要です。
- メタボリックシンドローム該当者率が県内で高い水準にあり、若い世代からの生活習慣の改善を促すことが必要です。
- 予防接種の利便性を高めるため、予防接種事務のデジタル化が必要です。
- 新たな感染症に備え、行動計画を定期的に見直すことが必要です。
- 変化する社会情勢のなかで、こころの健康を保ち、うつや自死を防ぐために、ストレスへの対処法や十分な睡眠・休養の確保等に関する啓発及びこれらを支える人材の育成が重要です。
- 成人市民のスポーツ実施率(週に1回以上スポーツを行う割合)は向上しましたが、引き続き誰もがスポーツに親しむことができる機会の創出や活動場所の環境整備が必要です。

単位施策・個別施策

1 健康づくり

① 健康寿命延伸に向けた取組の促進

生活習慣の見直しや、「食事」「運動」などの生活行動の改善を促すため、健康づくり教室や健康相談の実施に加え、ICTを活用したセルフケアを推進するなど、市民の日常的な健康づくりを支援します。併せて、健康づくりを支える人材の育成を図ります。また、高齢者の健康課題に沿った保健事業を展開することで、健康寿命の延伸につなげます。

② 健康診断を活用した健康づくりの促進

自分や家族の健康に関心を持ち、病気の発症と重症化を予防するために、健康診断やがん検診の受診率の向上を図ります。また、健康診断の結果に対する保健指導等の事後フォローを行うことにより、生活習慣の見直しを支援します。

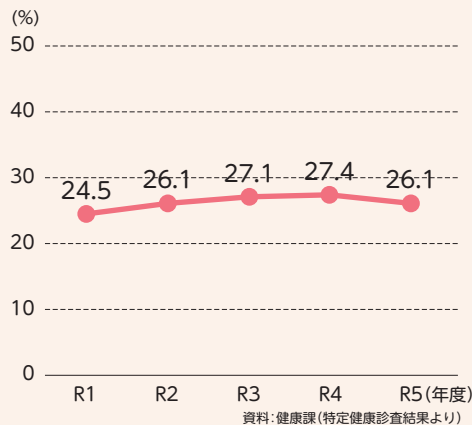
③ 感染症予防の推進

日常生活の中で感染症を予防するための習慣の定着を図ります。また、予防接種のデジタル化を推進し、予防接種法で定められた定期予防接種を確実に進めることで、感染症のまん延を予防します。さらに、危機管理の観点から、まん延防止に必要な衛生用品等を計画的に備蓄するとともに、感染症対策における行動計画の見直し等を図ります。

④ こころの健康づくりの推進

心のバランスのとれた自分らしい生活を支援するため、こころの健康に関する専門相談や講座を実施します。また、うつや自死を社会全体の問題と捉え、関係機関と連携し、未然防止につなげます。

メタボ該当者率(国民健康保険のみ)



リーディング事業

- 健康づくり推進事業
- 健康診査等事業
- 感染症予防事業

2 スポーツ

① スポーツに触れる機会の拡充

誰もが心身ともに健康でいられるよう、体力や年齢、障がいの有無、スポーツを実施する目的や場所などにとらわれることなく、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる機会の拡充を図ります。

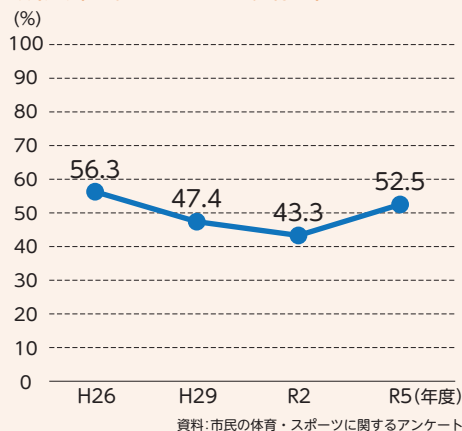
② 「みる」「する」「ささえる」スポーツの環境整備

地域のスポーツ団体や指導者等と連携し、安定的にスポーツの機会が提供できるよう、スポーツ活動の支援を実施します。また、様々な立場から楽しんでスポーツに関わることができる環境を整備します。

③ スポーツ施設の魅力向上

誰もが安心・安全にスポーツ施設を利用することができるよう、施設の効率的・効果的な管理運営を進めるとともに、新総合体育館など魅力ある満足度の高い施設整備を推進します。また、利用率が低い時間帯の利用者数増加を図ります。

成人市民のスポーツ実施率



リーディング事業

- どこでもスポーツ推進事業
- 体育施設管理運営事業
- 新総合体育館建設事業



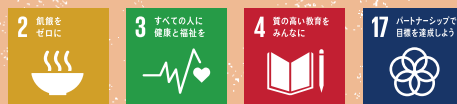
- 1 市民の喫煙率を把握し、その2割減少に向けて取り組みます。
- 2 高齢者の心身の課題に対応するため、運動、口腔、栄養、社会参加等の観点から、高齢者の保健事業及び介護予防を一体的に実施します。
- 3 様々なスポーツが体験でき、誰もが楽しめる大規模なスポーツイベントを開催します。
- 4 多目的利用可能な新総合体育館建設に向け、多様な官民連携手法を導入します。
- 5 スポーツ協会、スポーツクラブ、スポーツ推進委員との連携を図り、連携する団体主催による様々なスポーツ体験会等の開催につなげます。

関連
個別計画

- 健康はんだ21計画・いのち支える計画
- 国民健康保険データヘルス計画
- スポーツ推進計画
- 新総合体育館基本計画
- 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画



関連するSDGs





リレーマラソンの様子



3 X 3 イベントの様子



施策が目指す半田市の将来の姿

- 健康や病気について気軽に相談でき、病気の早期発見・重症化予防のための充実した支援を受けることができます。
- 病気の高度急性期から回復期、療養期まで切れ目ない医療を身近な地域で安心して受けることができます。

基本成果指標

| | 単位 | 計画策定時 | | 現状値 | 目標値 |
|------------------------|----|-----------|------|--------------|---------------|
| | | 年度 | 基準値 | 2024 (R6) 年度 | 2030 (R12) 年度 |
| 市内の医療体制が充実していると思う市民の割合 | % | 2020 (R2) | 49.3 | 54.4 [55] | 60 |

[]内の数値は計画策定時の2025(令和7)年度目標値

現状と課題

- 病気の早期発見や重症化予防のため、かかりつけ医の必要性や医療機関等に関する情報の周知など、日頃から健康や病気について気軽にかかりつけ医等に相談できる環境づくりが必要です。
- 知多半島総合医療機構と地域の医療機関との役割分担と、各医療機関の連携強化により、高度急性期から回復期、療養期までの総合的な医療体制を構築することが必要です。
- 災害拠点病院である知多半島総合医療センターと連携し、大規模災害時にも十分な機能を果たすことが求められています。

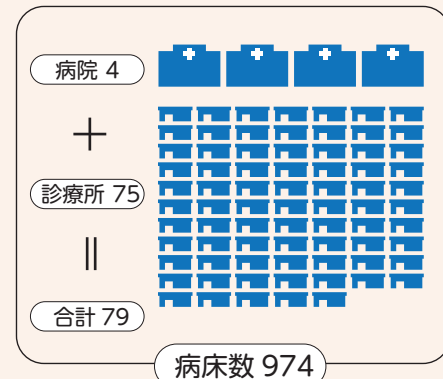
単位施策・個別施策

1 地域医療体制

① 連携強化による地域医療の充実

知多半島総合医療センターと地域の医療機関との役割分担、各医療機関の連携強化を促し、休日診療等の維持とともに地域完結型の医療提供体制を整備します。また、病気の早期発見や重症化予防のため、半田市医師会、半田歯科医師会、知多薬剤師会等の協力のもと、国民健康保険及び後期高齢者医療制度における健康診査等の実施や健診結果を活用した保健指導や生活指導を行い、適切に医療受診へ結びつけるなど、市民とかかりつけ医等とのつながりを支援します。

市内の病院・診療所数と病床数



資料：愛知県病院名簿・愛知県診療所名簿（R6）

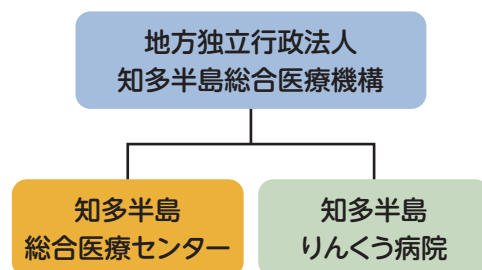
リーディング事業

- 特定健康診査等事業
- 救急医療対策推進事業

2 知多半島総合医療機構

① 持続可能な医療体制の構築

令和7年4月1日に半田市と常滑市が設立した（地独）知多半島総合医療機構は知多半島総合医療センター、知多半島りんくう病院を運営します。今後、機構が効率的で健全な経営を図るため、市は両病院のさらなる機能分担と地域の医療機関との役割分担を進めるよう働きかけます。さらに、救急医療、周産期・小児医療、がん治療を始めとした高度医療などの政策的医療に対して運営費を負担することで、急性期から回復期まで切れ目のない医療を継続的に提供します。



知多半島総合医療センターのドクターカー



- 1 知多半島医療圏域における医療機関等(公的及び民間病院、診療所、介護事業者等)の相互の機能分化や、人材交流、業務の連携等を推進し、地域における質の高い効率的な医療を安定的に提供します。

関連
個別計画

- 国民健康保険データヘルス計画
- 知多半島総合医療機構中期目標



関連するSDGs





知多半島総合医療センター